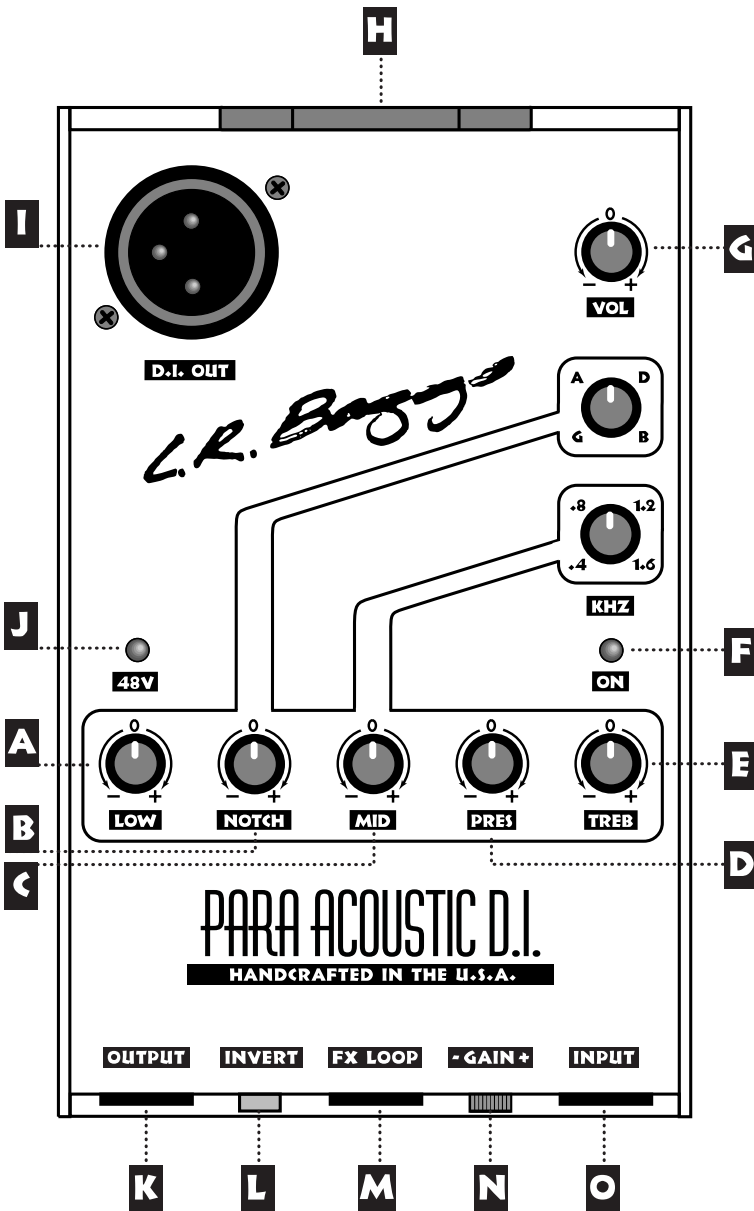


# PARA ACOUSTIC D.I.

## USER'S GUIDE

エルアールバッグスの製品をお買上げ頂きましてありがとうございます。パラアコースティックD.I. はアコースティック楽器用のあらゆるメーカーのピエゾピックアップやマグネチックピックアップのプリアンプとして使用することができます。多機能を重視した同様のプリアンプとは違い、使用する楽器本来の音に忠実であることを基本的な設計ポリシーとしています。高性能なD.I. としても使用できる為、世界中のスタジオやライブ等のプロの音場でも定評のプリアンプです。このマニュアルを一読の上、有効にご使用ください。 ENJOY MUSIC!



## CONTROLS

### A Low EQ band control (85Hz):

85ヘルツをポイントとした重低音用コントロールです。耳で聞くより体感低音に近い基礎となる音域です。

### B Notch control and tune knob (98 to 247Hz):

フィードバック対策の為にデザインされた機能です。たとえば、特定の弦がフィードバックしたりギター全体がブーミングサウンドとなっている時にその問題となっている周波数帯域をカットする時に使用します。セットするには... まず"NOTCH"ノブを『+』側の最後まで回します。そして"A D G B"と表示されているノブを回しながらフィードバックやブーミングサウンドが一番大きいポイントに合わせます。ポイントが決まったら後は"NOTCH"ノブを『-』方向に絞り込みます。"NOTCH"はEQとしての使い方も考えられます。"D"と"B"の間に(約200Hz)に設定しややカット気味にすればブーミー又はマディーサウンドを避けよりクリアな音創りができます。逆にこの帯域をややブーストすれば、薄い痩せた音のするギターがよりアコースティック的な暖かい音になります。

### C Midrange control (400Hz to 1.6kHz) and tune knob:

中域のレンジを可変設定し、暖かみを持つ帯域から聴覚上の中高域までをコントロールします。400Hz 周辺をブーストすればより暖かみのある音、800Hz~1.6kHz帯域をカットすれば耳触りな中高域部を抑えることができます。多くのアコースティックギターはアンプを通した時に1000Hz あたりの帯域が出すぎる為 このポイントでややカット (3 ~6 dB) すると有効な場合が多いのです。

### D Presence control (5kHz):

"シュー"または"シー"といったシンバルが鳴っている時の帯域です。P. A. のホーンスピーカーがきつく強調された音の時はややカットまた逆に鳴りが弱いまはばやけている時はブーストします。

### E Treble control (10kHz):

一般的に言われている"エアー感"または凍り付くような高域をコントロールします。

### F Battery status LED:

ジャックがプラグインされている時LEDが点灯します。バッテリーが少なくなり交換が必要になると点滅をします。ポルテージが6Volt になると暗くなり始め、5Voltに達すると消えます。

### G Volume control:

ボリュームコントロール。ボリュームがマックスの状態でもベストのS/N比(超低ノイズ)が得られます。

### H Battery access compartment:

スライド式でバッテリー交換が容易に行えます。

### I Balanced XLR output:

標準的なポストEQ/EFFECTS のローインピーダンス・バランスアウトです。

### J Phantom power LED:

48V のファントムパワーが生きている時はグリーンLEDが点灯します。

### K 1/4" output:

標準のモノケーブルを使用するアンバランス・アウトです。アウトプットの信号はXLRアウトと全く同じなので、このアウトとXLRアウトを同時に使用してのクリエイティブな音創りが可能です。

## L Invert switch:

このボタンを押すことで『+』『-』の位相を反転させます。ボタンが出ている状態でアウト信号はインプット信号とインフェーズ（通常の状態）、ボタンを押すことでアウトオフフェーズ、つまり位相を反転させ低域部のフィードバックを抑えることができます。このインバートスイッチのみでフィードバックが改善されない時は、前述のノッチコントロールを併用します。位相を切り替えるとライブでの使用時やレコーディングでの他の楽器とのアンサンブル時に音が埋もれることなく効果的ですが、同時にギター之音質も多少変わることを考慮して下さい

## M Effects loop:

このジャックはステレオタイプで生音に（並列で）リバーブ、コーラスや他のエフェクトをブレンドすることができます。ステレオプラグで反対が（Yタイプの）2つに別れたモノプラグ仕様のケーブルを使用して下さい。ステレオプラグの先の部分の信号は"SEND"でエフェクトのインプットに、もう1つの部分の信号は"RETURN"でエフェクトのアウトプットにつなぎます。エフェクト信号のボリュームは使用する外部エフェクト側で調整します。"SEND"側の信号は、EQ/Volume/Invert Switch などの全てのコントロールより前の段階で、"PARA ACOUSTIC D.I."本体のプリアンプ(Pure Class "A")からダイレクトにアウトされます。こうなることで原音を活かしたアンバランスタイプのダイレクト音を効果的に使用できます。本体上のコントロールには全く影響されない状態で使用できるわけです。別の利用法としては、GUITAR TUNERアウトとして使用できます。本体上のコントロールには影響されなく、絶えず"ON"になっている為、ギター側のボリュームを"0"に落としてもGUITAR TUNERのみ作動し確認することができます。

## N Gain control:

下記の"SETTING THE GAIN"（ゲインの設定）をお読みください。

## O Instrument input:

通常のフォーンプラグ（1/4"プラグ）を接続すると電源が入ります。

(注) パワー・アンプがONの状態ではプラグを抜き差しすると大きなポップ音がします。当社の"Soft Start"ミュート回路はこのポップ音を減少させますが、それでもパワー・アンプ側の電源を切ったほうがいいでしょう。

# Setting The Gain (ゲインの設定)

Para Acoustic D.I. の性能を最大限に引き出すため、ゲインの設定が非常に重要になります。

まず、ゲインとは『音量』ではなく入力信号を使えるレベルにするための『増幅装置』であると考えてください。Para Acoustic D.I. はピックアップやアクティブ装置などの様々な入力信号に対応するためにゲイン・コントロールを備えています。たとえば、当社の iBeamPassive/M1 Passive のような出力の低いパッシブ・ピックアップを使っていてゲインを最大限上げ切らないとPA側で音量を上げなければならぬため、PAのヒスノイズが異常に目立つこととなります。逆に、出力の高いアクティブ・ピックアップを使用する場合には、ゲインを必要以上に上げてしまうと歪んだ音になってしまいます。

ここでポイントとなるのは、ヒスノイズとディストーションとの境目を見付け、その境目の中で最もリッチでクリアな音色を出力するポイントを探すことです。

ピックアップないしはマイクをPara Acoustic D.I. に、Para Acoustic D.I. をPAまたはアンプに接続した状態でハードに弾きながら、歪んだ音が出始めるポイントまで徐々にゲインを上げて（右に回す）いきます。そのポイントから今度は逆にゲインを下げ（左に回す）、歪んだ音がなくなりクリアな音が出るポイントで止めます。このセッティングがもっともリッチでクリアな音色を出力するポイントであるため、一度ポイントを決めたらゲインは触らないほうがいいでしょう。ゲイン・コントロールをボリューム・コントロールとして使用すると、音のキャラクター自体が変わってしまいますのでご注意ください。

**Gain control settings (設定例) :** 下記チャートは当社製品を使用した際のゲインの設定例です。  
あくまでも目安ですので、このセッティングを元に色々試してみてください。

	Pickup	ケーブルの長さ *	Setting
Passive Type Pickups (プリアンプなし)	iBEAM Passive	12' (3.6m)	- ● +
	M1 Passive	"	- ● +
	LB6 Series	"	- ● +
	Hex Pickup	"	- ● +
	X-Bridge(Passive)	15' Y cable (4.5m)	- ● +
Active Type Pickups (プリアンプ付)	X-Bridge(Ctrl-X)	長さの影響はほとんどなし	- ● +
	iBEAM Active	"	"
	Anthem/SL	"	"
	iMIX/DualSource	"	"
	Element/VTC	"	"
	M1Active/M80	"	"

### \* (注)

通常のギター・ケーブルをエルアールバックスのパッシブ・ピックアップに使用すると、約30cmにつき1dbゲインが下がります。上記のテストのように3.6mのケーブルを使うと既に12dbのゲインが下がっていることとなりますので、ご使用になるケーブルの長さに合わせてゲインを調節してください。他社製のパッシブタイプのピエゾを使うときも同様となります。

エルアールバックスのアクティブ・ピックアップの使用時は、ケーブルの長さによるゲインの低下は起こりません。

### < Para Acoustic D.I. Specifications >

▲Size:142(L)x91(W)x48(D)mm ▲Battery: 1x9V ▲Current Consumption: 2.9mA ▲BatteryLife:200-Hrs.(Alkaline) ▲ExternalPower: 30~48V Phantom Power ▲EQ/Low ±12dB(85Hz)▲Notch: ±6dB(98=247Hz) ▲Midrange: ±12dB(400~1.6kHz) ▲Presence: ±6dB(5kHz) ▲Treble: ±12dB(10kHz) ▲Low Cut Filter: Fixed, 12dB/oct.(35Hz) ▲Gain:4~18dB ▲Input Impedance:10megaohms ▲S/N:-88dB▲FX SendImpedance:12K▲FXReturn Impedance:100K ▲Output Impedance:600ohms

L. R. BAGGS製品に関しては最寄りのお店にお問合せになるが、ホームページ [www.jes1988.com](http://www.jes1988.com) をご参考にして下さい。